

第7回 精神障がいのある親とその子どもの支援に関する学習会【実施報告】

親&子どものサポートを考える会

去る5月23日(日)に『第7回 精神障がいのある親とその子どもの支援に関する学習会』をオンラインにて開催いたしました。終了後に実施したアンケートをもとに報告させていただきます。

1. 当日の参加状況

学習会開催の周知広報は、これまでに学習会に参加されたことのある方へのメール送信や会のHP掲載で行いました。事前に111名の方から参加の申し込みをいただき、当日は途中の出入りはありましたが、およそ100名前後の方に参加していただきました。

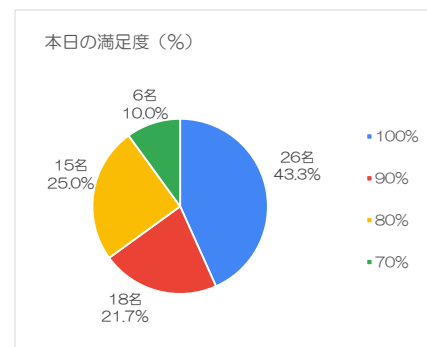
22機関の担当者から1機関10分ずつで取り組みをご紹介いただき、4時間という長丁場となりましたが、みなさんのご協力のおかげでほぼ予定どおりに無事に終了することができました。アンケートは、Googleフォームで回答期間を一週間設けて実施し、最終の回答者数は61名でした。

2. 学習会について(アンケートより)

1) 満足度

学習会の満足度は、100%が26名(43.3%)、90%が18名(21.7%)、80%が15名(25%)、70%が6名(10%)でした。

その理由として、「全国各地の様々な取り組みを知ることができた」「当事者の子どもやパートナーなど様々な視点からの話が聞けた」と地域的な広がりと内容的な広がりにも満足していただけた方が多数おみえになりました。一方、「時間が長く疲れた」「それぞれのお話をもう少し聞きたかった」など、交流の場の設定ができなかったこと、長時間の一方的な視聴になったことについて残念に感じられた意見もありました。



2) 運営や内容について

昨年はコロナの感染拡大により約1か月前に中止の判断をし、それ以前に申し込みをされていた少人数の方を対象にオンラインで実施させていただきましたが、今年は当初よりオンラインでの開催を企画して準備を進めてまいりました。限られた時間の中で効率よく、しかもみなさんに満足していただけるような内容にしたいと暗中模索の状態でしたが、親支援・子ども支援の取り組みを紹介して下さった機関のみなさまと参加者のみなさまのご協力のもと、無事に終えることができました。

アンケートでは、「オンラインのメリットを生かした学習会になった」「きちんと時間管理がされていてよかった」「多くの活動を学び合う・理解し合う・繋ぎ合うという場を継続的に提供してもらっていると感じた」など、大半のみなさまに満足していただけたようでした。

本学習会の狙いの一つに、参加者同士の交流・ネットワーク作りを掲げていますが、オンライン開催の今回の学習会では、参加者同士の意見交換や交流の場を設けることができませんでした。そのため、ご協力いただける方に①参加動機や思いなどのメッセージをお寄せいただき、資料と一緒に事前に配信させていただき、②終了後のアンケートに皆で共有したい感想の項目を設け、参加者の皆さまに配信させていただき工夫を取らせていただきました。多くの方からたくさんの思いを寄せていただき、「それぞれ目指すものは一つだけれど、各活動は多種多様で、個性的であることに希望が持てた」「一人では微力であっても、みんなが集まると大きな思いに感じ、力をもらった」「自分たちの取り組みの工夫や改善に取り組んでいこうという動機づけが高まった」など、個々のモチベーションアップにつながったという感想や、「ライフコースに合わせた支援が必要」「支援者をサポートしていける仕組みができればいい」など、今後の活動のヒントを得たという内容の回答もありました。

3. 全体を通しての総括

オンライン開催となった今回の学習会では、参加者の皆さまと直接やりとりすることはできませんでしたが、情報交換・提供として、各地で実施されている親支援・子ども支援を紹介していただき、それぞれの思いや工夫から私自身、多くの刺激をいただきました。同様の取り組み紹介を行った2014年よりも、子育て中の当事者さまや子どもの立場の当事者さまが情報発信し活動に取り組まれている方が多く存在するなど、取り組みの内容や運営の仕方にも広がりが増したように感じます。

今回、多くの機関から取り組み紹介をいただけたこと、多くの方に参加いただけたことに感謝する一方で、それゆえ、質疑応答の時間を設けることができず、一方的な情報提供に終わってしまったことは運営者として課題が残ってしまった部分でもあります。COVID-19の今後の経過にもよりますが、次年度は双方向のやり取りができるよう、皆さまからいただいた意見も参考に考えていきたいと思っております。

次年度以降に取り上げて欲しいテーマについて伺ったところ、最近クローズアップされている「ヤングケアラー」についてと「家族支援」についての要望が複数ありました。その他、「教育関係者・行政関係者の活動」「他職種との連携事例」など活動の視野や幅を広げるための情報提供を望む意見もありました。これららの意見も参考に次年度のテーマや実施方法を検討していきたいと思っております。

令和3年6月吉日

親&子どものサポートを考える会
世話人代表 土田 幸子